



柳下亭種員筆話
一雄齋國輝画

應需
表題
曲多國画

藤慶梓

實種水野新堂
編初

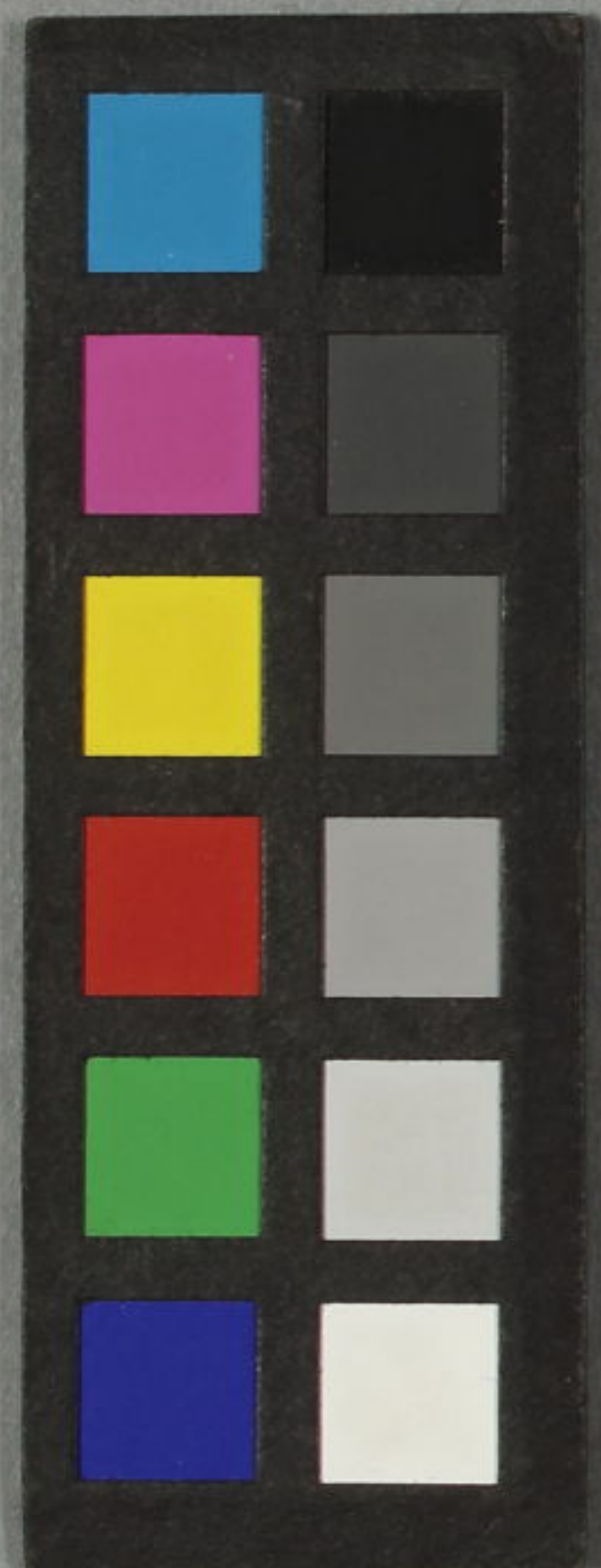
己酉
新板

上

^13
3766
2

^13
3766
1





實人禮花野岩堂編初

己酉
新板

上

^13
3766
1



門 へ13
 號 3766
 卷

實入

秋

花

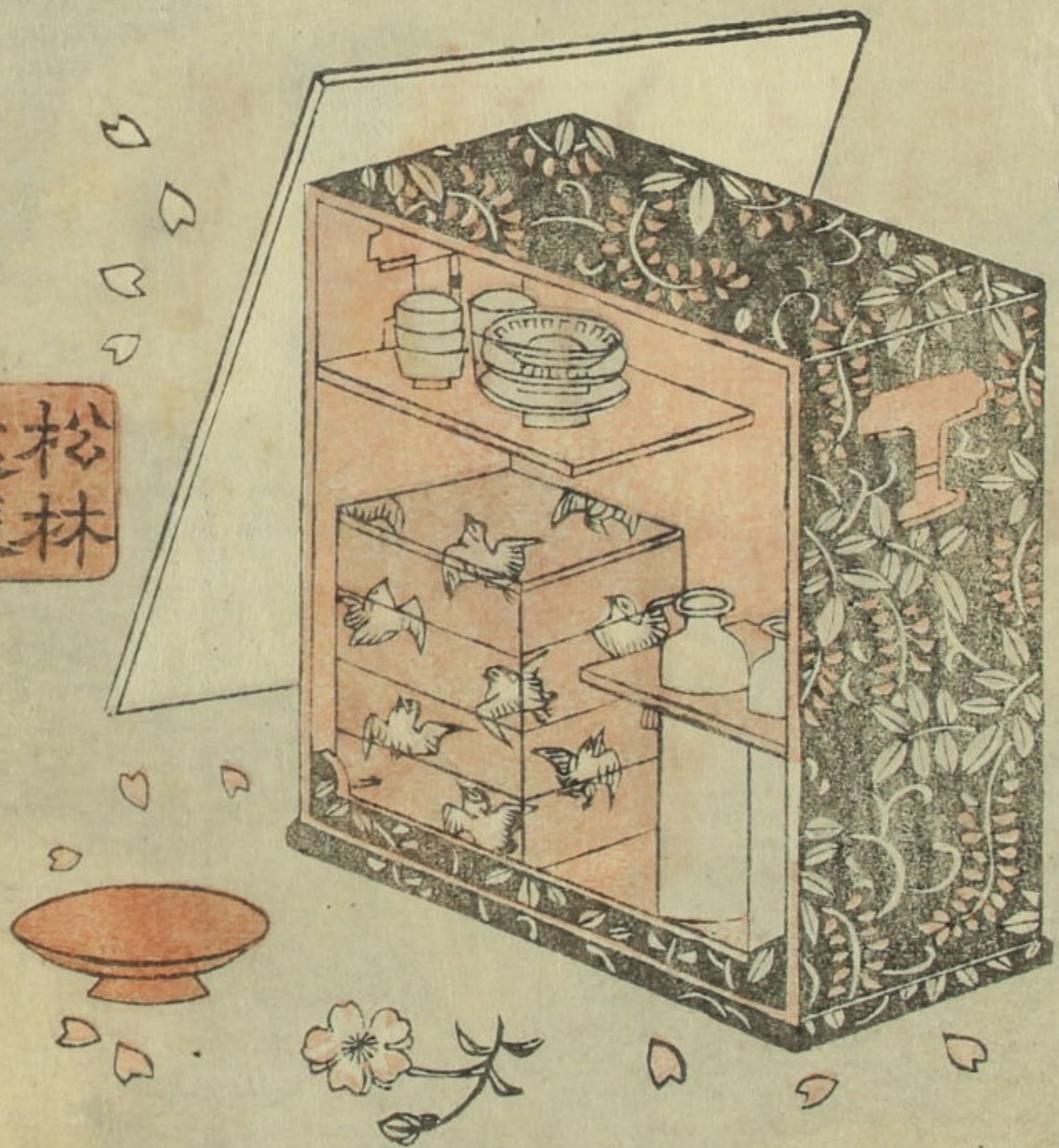
野

萱

たねのまはる画
 たねのまはる話

上の巻

松林
 文庫



一

夫孝ハ百行の本と云々七歳の幼童父を尋ね疾の母を介抱
 しん遙く紀伊路の逆旅小迷ふ人も普知筑紫鞍彼院本を
 推来て是れ地名も高野山明後日まて小辨史小綴更よと松林
 堂の註文乃九州松浦黨加藤左衛門尉繁氏入道所萱と最長
 の海舟の至極日足も短くあり秋の真中の急著迷忽卒
 ろり頼小稿成忠孝を愛る當時の人情者官の御意の適ひ
 原本の文句のやう小昨日摺る此合巻一昨日摺る此合巻と摺る
 殆呆了やど江湖小流行石動丸が孝行小あつて佳見達か善道小
 進をたすむ幸あつんと願ふも作者が老婆心切あり

于時嘉永己酉正月

柳下亭種員誌

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十



加藤 繁氏
發心
荊萱同心
号

此段ハ
第三編目
委
説
里

カ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

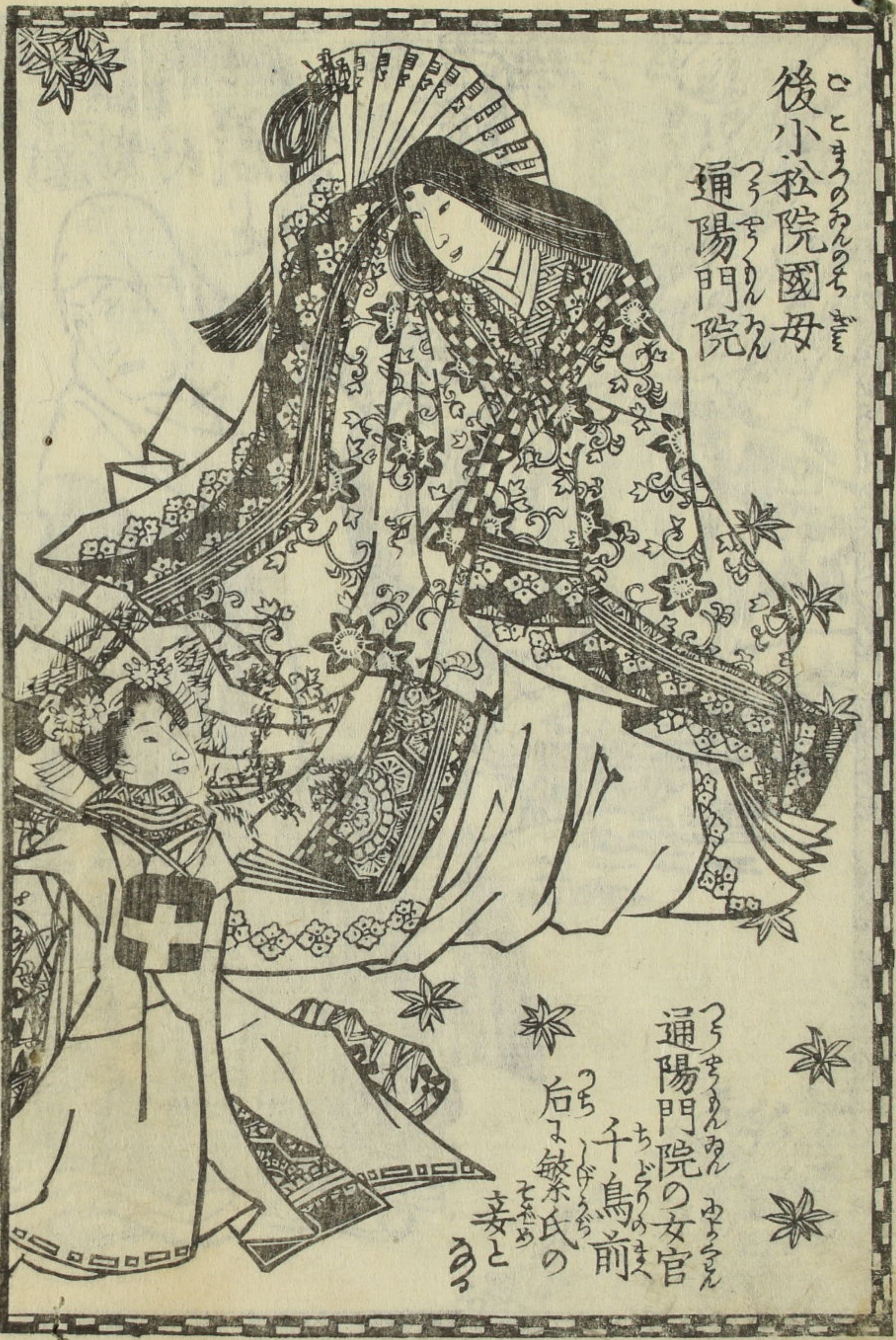


石動
九
繁
子
氏
の



加藤左衛門尉
 藤原繁氏
 出再

繁氏御臺所
 牧の方



後小松院國母
 通陽門院

通陽門院の女官
 千鳥前
 后藤繁氏の
 妻と

播磨の
浮浪
細千代
左膳



さつね川のさつね場
瓶川渡場

繁氏の
若黨
横口
戸平

遠江浮浪
駒形一學



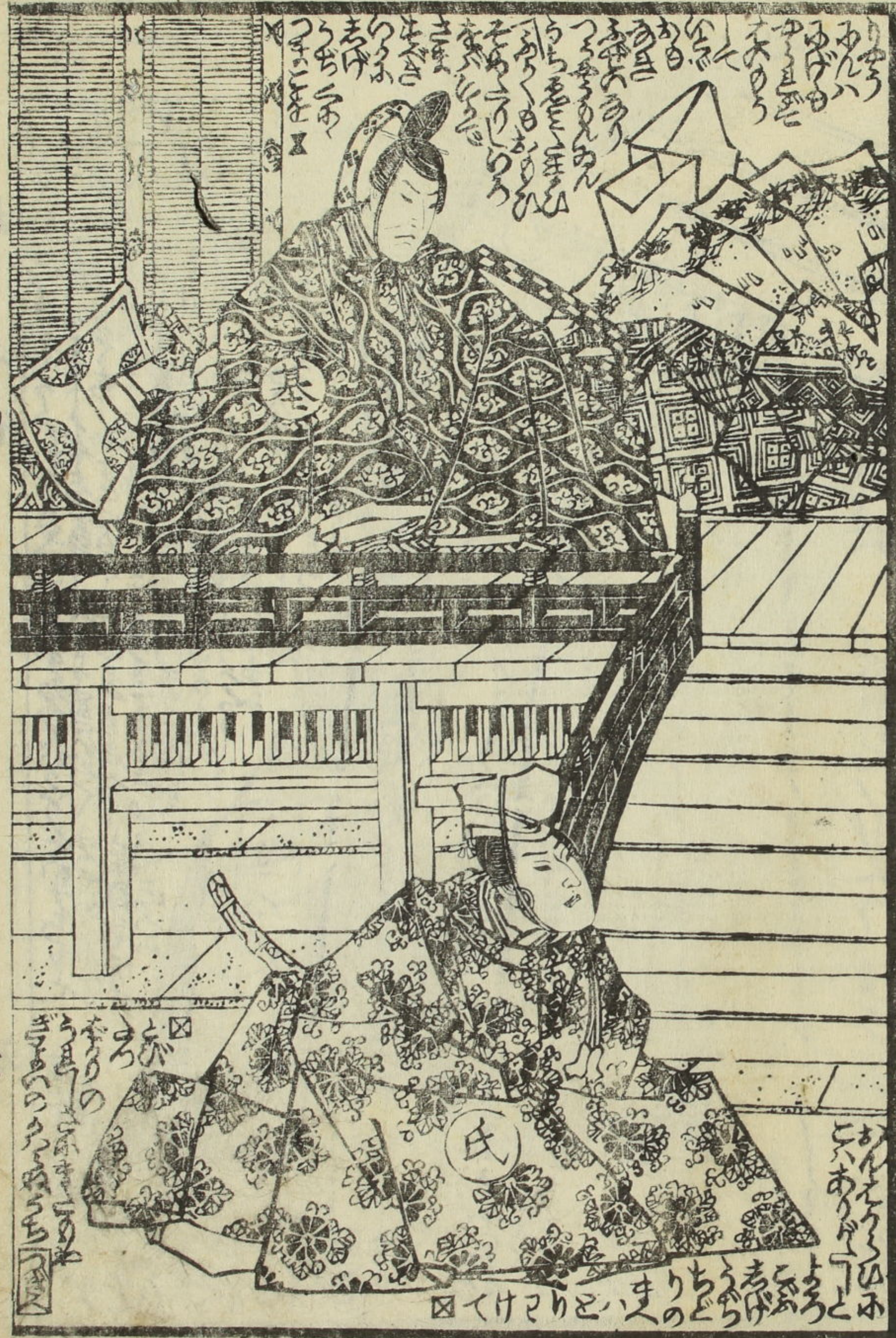
千鳥前が兄
黒塚
鬼藏人

ついで

五

かた

四





種員譯國輝画



龍夫太郎英雄譚

六編 式亭小之馬作
七編
八編 一陽齋豊國画

五色深苔環冊子

二編 式亭小之馬作
三編 歌川豊國画

花白梅春風

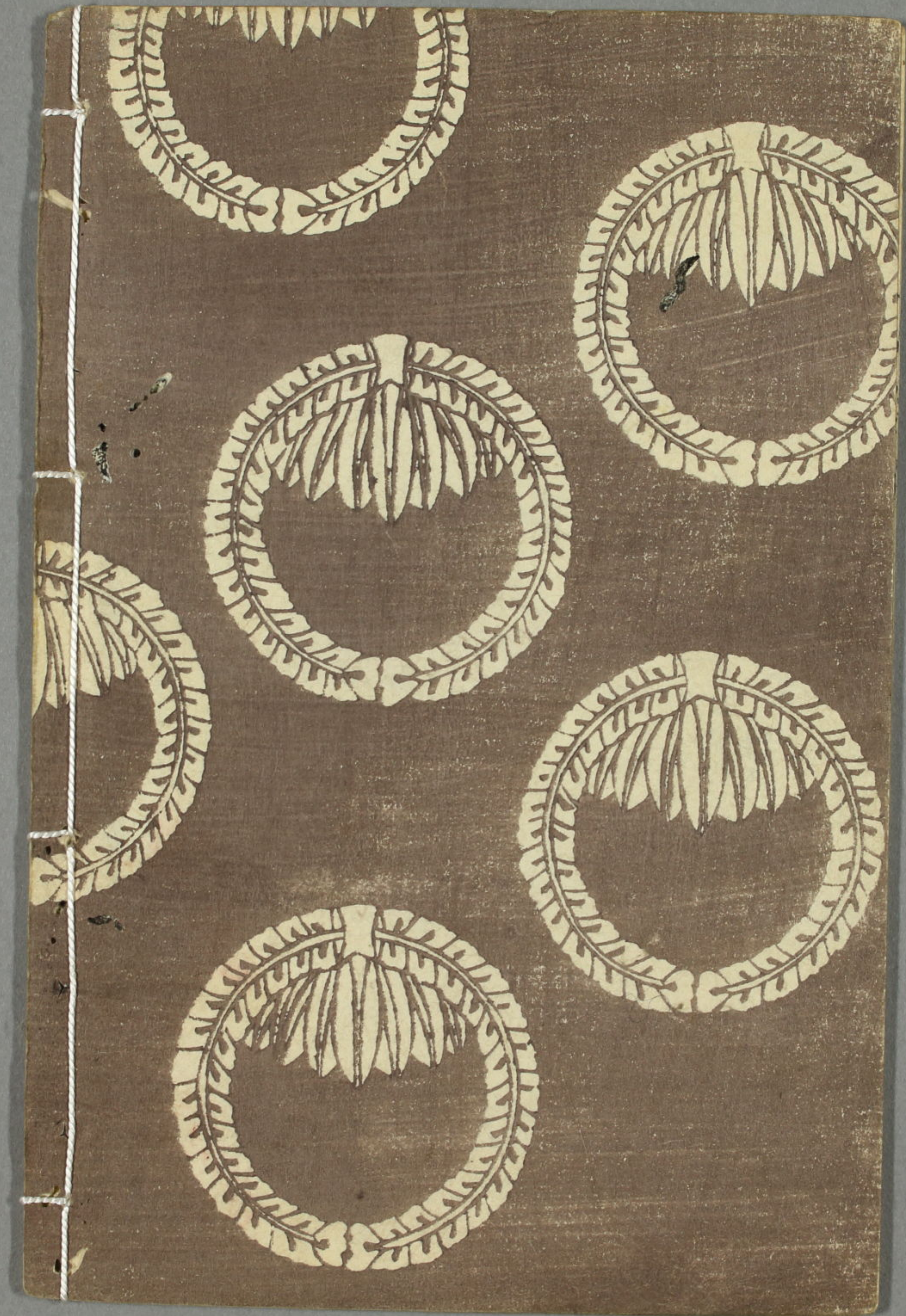
初編 式亭小之馬作
二冊 一雄齋國輝画

落活江戸嬉笑

初編 福喜亭之笑作
一雄齋國輝画

令東錦繪地本屋

江戸通油町南側
藤岡屋慶次郎





^13
 3766
 2





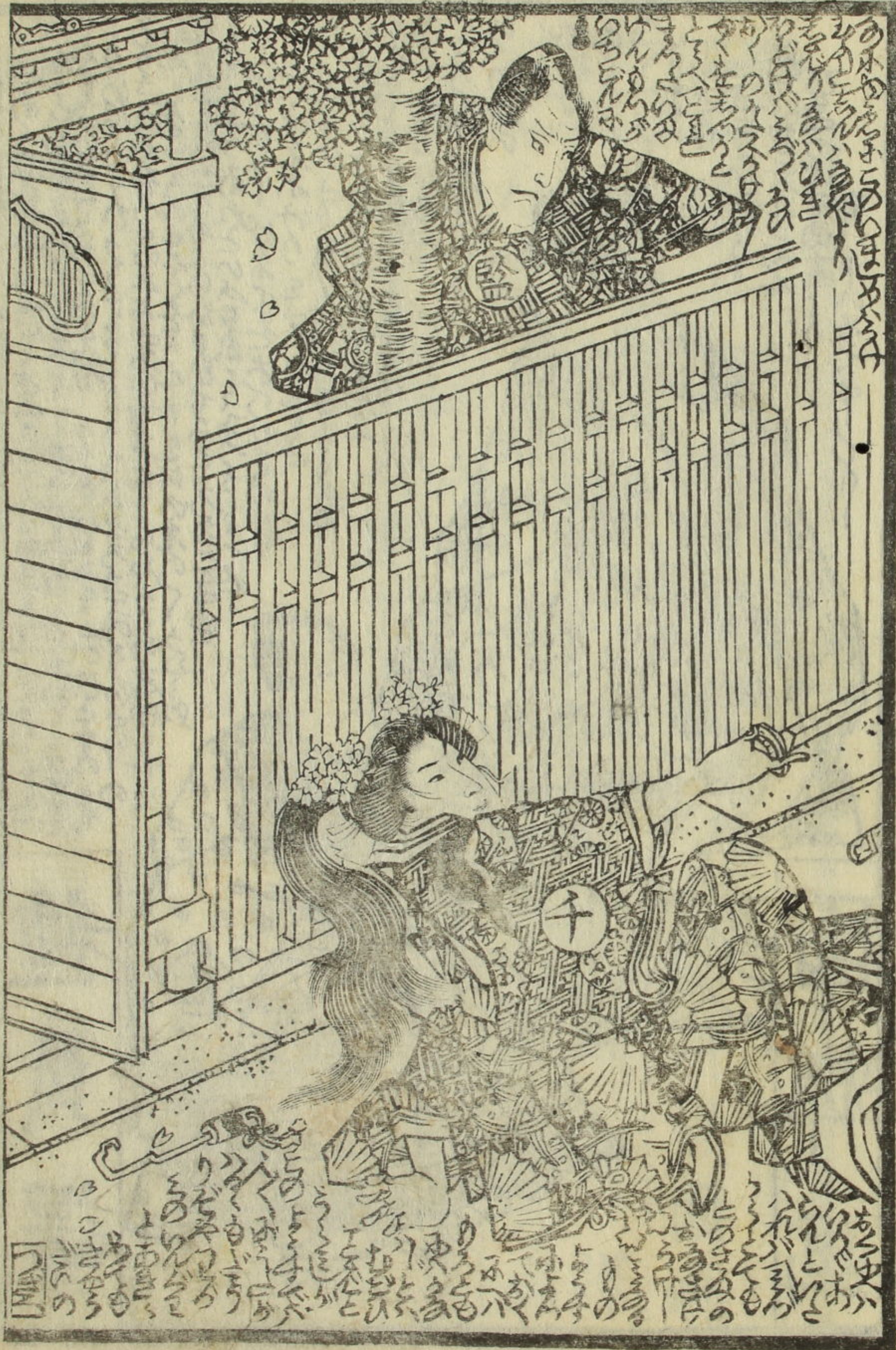


カ...

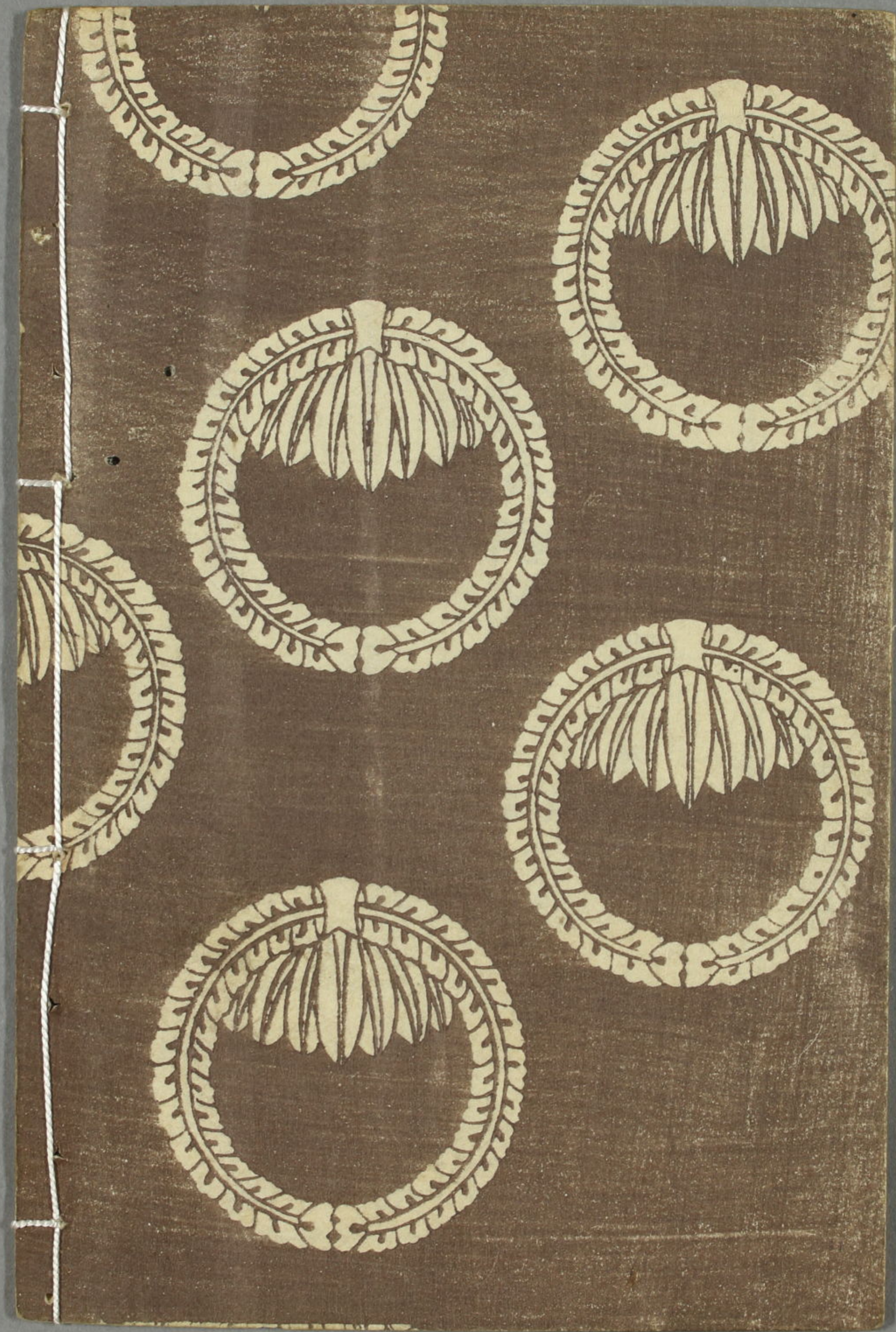
...



かたはら



大... 七



種白作

實入秋苑新菊堂

^ 13
3766

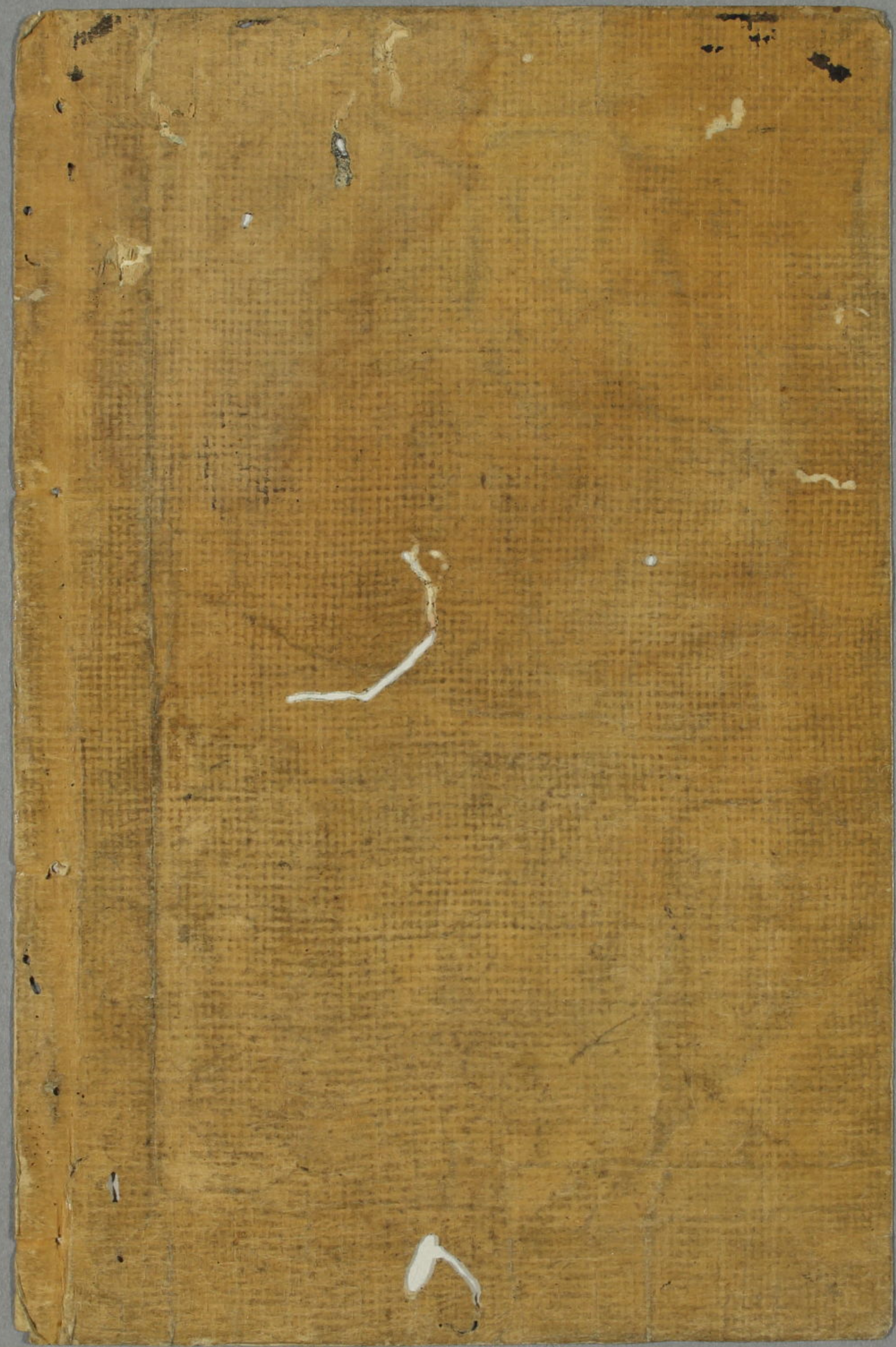
そののあきまの
實入秋花野
か葺初編

己酉春
新刻

柳下亭種員譯
一雄齋國輝画

藤慶板





夫

加名
三魚ん

種員譯



己酉新春

國輝画



松林
堂梓